





照用乾隆七年所定舊章







一吨以上は僅かに十八町會

[illegible]

「願はずも牛島の一蜜  
苦心の形語を擲つて  
め三感において覆藏され  
が持つ荷からかき遣ふを求

命の尊さを終後に説いた第十  
字日は、數々の國傳を吾に残  
して終つたが、その最終日の  
描かれた畫圖の奇麗甲斐が  
半島鐵底奥奥艇に描出品  
を行つた京族新譜四二三  
金仁革輩伯の描つた所契も  
また圖傳勇士どんな腔で天  
使連に看とられゝゝゝゝゝ  
思念をもつて遂と畫をと



つたものであつた。書面に呼出すしなれた、元々の習慣、徳義、風流、才情の勢ひを顯したる入魂の文、兵に一野名を讀めて出している、なほ日赤團の愛護は十九日佐々木副団長の團信を得て執り行ふこととなつてゐるが、赤十字の勲章を飾る指針として牛乳瓶の蓋は勿論、赤十字の勲章となつてゐる（「愛護」寄附される油瓶）。

肉屋を恐喝の偽檢察吏捕る

[illegible]

來月城大登山班の壯舉

[illegible]

目立つて健康豊へ

目下之健康第一



辭の女學  
 と耳を鑑  
 て勝利を  
 たことは  
 すがに京  
 の女生ら  
 いです  
 富貴に耳  
 よい九少  
 ★

黄金町の惨死體

**黄金町の惨死**

十七日午前九時、京極金町  
ノ二九一五、江戸野方町内  
に誘打された。開腹を要し、  
物で突き立てた様子はつゝ  
脈を閉じたが、買大さな  
なつて本町には直ちに搬送

城府弘濟町第三區第二班員一  
忽先服來金屬類回收密却代金五



十七日城東へ寓された観  
花衆

五十丁下生、間田五太郎、  
佐良良一、同十四、西原前五  
郎、三浦隆一、同▲十四、  
明葉院源一、同▲十四、  
賀賀崎女二、年の一組生、同  
錦路一、萬屋新吉、同一  
一、木根良一▲三、二、點、  
二、四八の二、松本桂枝氏

賜へます。必勝の決意を固  
るため今年も全北道十四ヶ郷

[illegible]

あの晩、リンゴ畑の脇道での出来事以来、農場での生活は小百合も又一枚、別の手紙になつて

り、兎ると、金山に行つて罷たのを、出しおくれた車中のとて驚したのだつた。



M-10

突進もしてゐ  
ため、どう

[illegible]

に歸るのだといふことを、つくつく悟りました。もう夜は一時  
たけに寝かされた書(一五五〇)鑑  
東京、麹町、内幸町二丁目の四三  
亞日本社)

**洗眼が氣持よくできる**  
お目ごき  
なる新氣液



●二月十三日  
東京・大塚・池袋・有明各店

[illegible][illegible]









二挺ヒスト  
ルの天狗が  
断然大暴れ

時代劇映画の至寶  
監督 伊藤大輔  
監製 伊藤大輔

# 鞍馬天狗

十八日 朝野映畫  
大公開

原 寛 壽 郎  
作 健 作  
風 原 三 郎  
芝 徳 三 郎  
茅 糸 路

活劇探偵  
趣味横溢  
剣戟映畫  
の魅力正  
邪争闘の  
痛快！



十八日  
ヨリ公開

大 野 淵 監督



# お布の石

これほど  
美しい物語  
はない！  
これほど悲し  
い物語はない！  
これこそあらゆる  
女性に待つてゐる物  
語だ

大 野 淵 監督

同時上映  
劇中 新 庭 家  
南 城 金 語 樓 情  
無 情

城 南 劇 場  
中 央 劇 場

# 女成

十八日 封切

田 佐 伏  
中 野 見  
代 綱 信  
提 供 朝 野 映 畫

同時上映  
上 映 日 本 ニ ュ ー ス  
生 活 問 答

演 出 池 田 忠 雄  
脚 色 池 田 忠 雄

いのちをかけた女の愛  
情はこの様に激しい！！  
明治から大正へ  
轉じた十五年に  
忍苦を嘗めた女  
半生の流

京城實業劇場  
京城劇場